



戸定歴史館 令和4年度通常展 「戸定邸再考—徳川昭武 ひそかなお気に入り」

国指定重要文化財の戸定邸（旧徳川家松戸戸定邸）は、水戸徳川家当主を退いた徳川昭武の私邸として建設されました。水戸徳川家の本邸（小梅邸）のように広く豪華な建物・敷地ではありませんが、戸定邸は各所に機能美を兼ね備えた意匠が施されています。昭武の美学と戸定邸に秘められた彼のこだわりについてご紹介します。

展覧会 概要

●会 期 令和5年2月4日（土）～令和5年5月28日（日）

☆会期初日となる、令和5年2月4日（土）の9時30分から
記者の皆さまに解説付きで展示をご案内します。ぜひご取材ください。

●展示構成

プロローグ	徳川昭武 戸定邸を建てる
表（おもて）	徳川昭武のお気に入り
奥（おく）	戸定邸の日常
季節のしつらえ	兔年にちなんだ品、季節ごとの調度

●展示概要 本展では、所蔵する歴史資料、古写真及びそのデータを活用し、徳川昭武が居住した明治期の戸定邸を時間軸の中心とし、居住空間としての戸定邸に改めて目を向けます。現在、戸定邸は国の指定重要文化財として保存されていますが、徳川昭武の生活習慣や嗜好等もあわせて紹介し、かつて生活の場であった戸定邸を意識していただく展示を目指します。

●展示数 約65点（複写写真、展示入替分を含めた予定点数）

※期間中、作品保護のため、一部展示替えを行います。

※作品のコンディションによって、展示内容が変更になる可能性があります。

●展示品 明治期の古写真、複写写真、書画工芸品、文房具など。



（暫定イメージ）



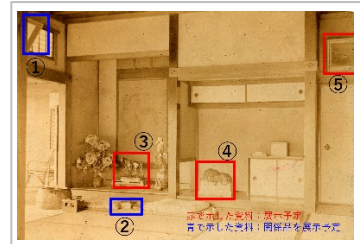
【展示予定の一部をご紹介します】

モノクロ、セピアカラーの写真は古写真です。
複写写真、AI 彩色画像を併せて展示します。



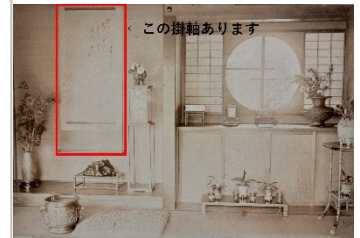
「明治廿二年五月四日松荘坐敷
ヨリ江戸川眺望撮影」
1889.5.4 江崎禮二撮影
松戸市戸定歴史館所蔵

左（めいじにじゅうにねんごが
つよっか しょうそうざしきより
えどがわちょうぼうさつえい）
と同じ地点から撮影した
現在の写真



戸定邸客間（表座敷棟）
1898.5.8 徳川慶喜撮影
松戸市戸定歴史館所蔵

赤：写真の品を展示します
青：関連資料を展示します



戸定邸離座敷
1898.5.8 徳川慶喜撮影
松戸市戸定歴史館所蔵

赤：写真の品を展示します

- 会 場 戸定歴史館・展示室
- 入館時間 9時30分～16時30分（17時閉館）
- 休館日 月曜（休館日が祝日の場合は翌日休館）
- 入館料 一般150円
（戸定邸との共通入館券一般は320円）
高校・大学生100円
（戸定邸との共通入館券高大生は160円）
※中学生以下無料



■ 戸定邸とは……明治時代の徳川家の住まいがほぼ完全に残る全国で唯一の建物です。建物は国の重要文化財、旧徳川昭武庭園（戸定邸庭園）は国の名勝に指定されています。

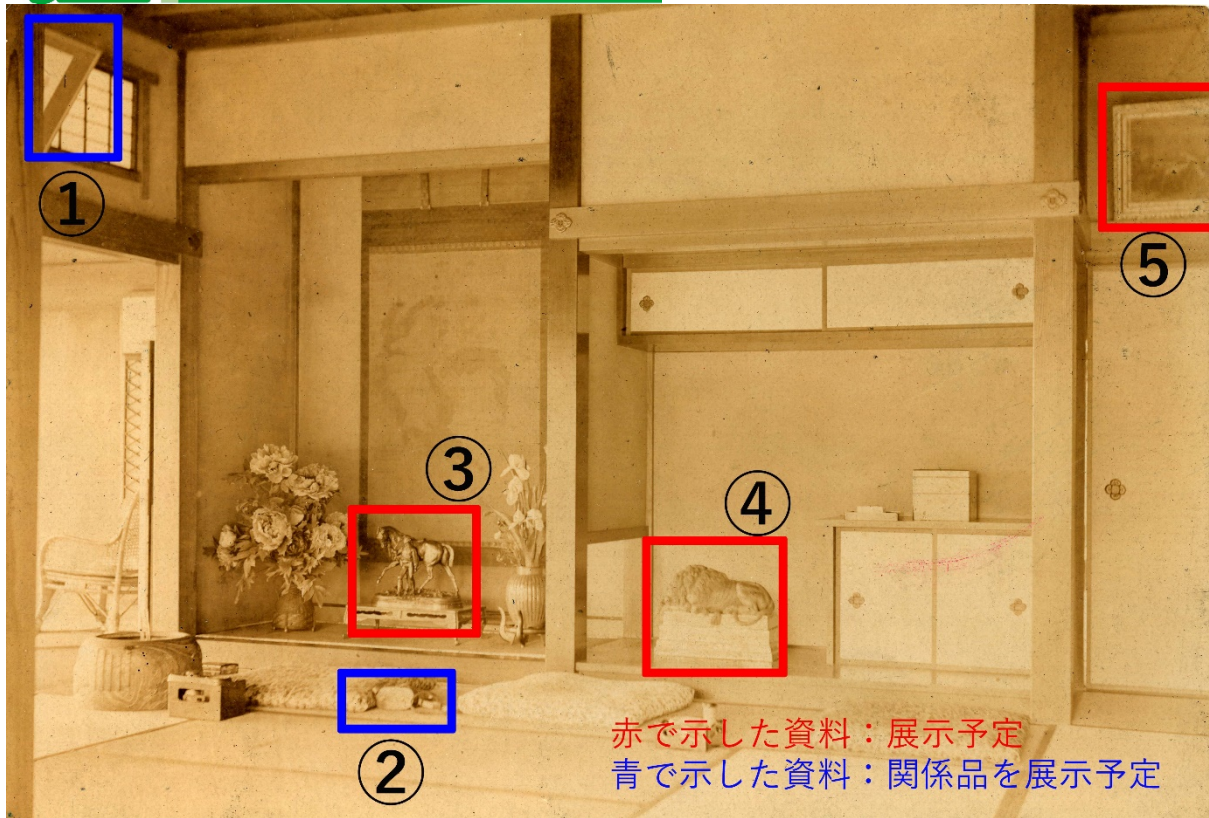
【本件に関する問い合わせ先】

〒271-0092 千葉県松戸市松戸7-14-1

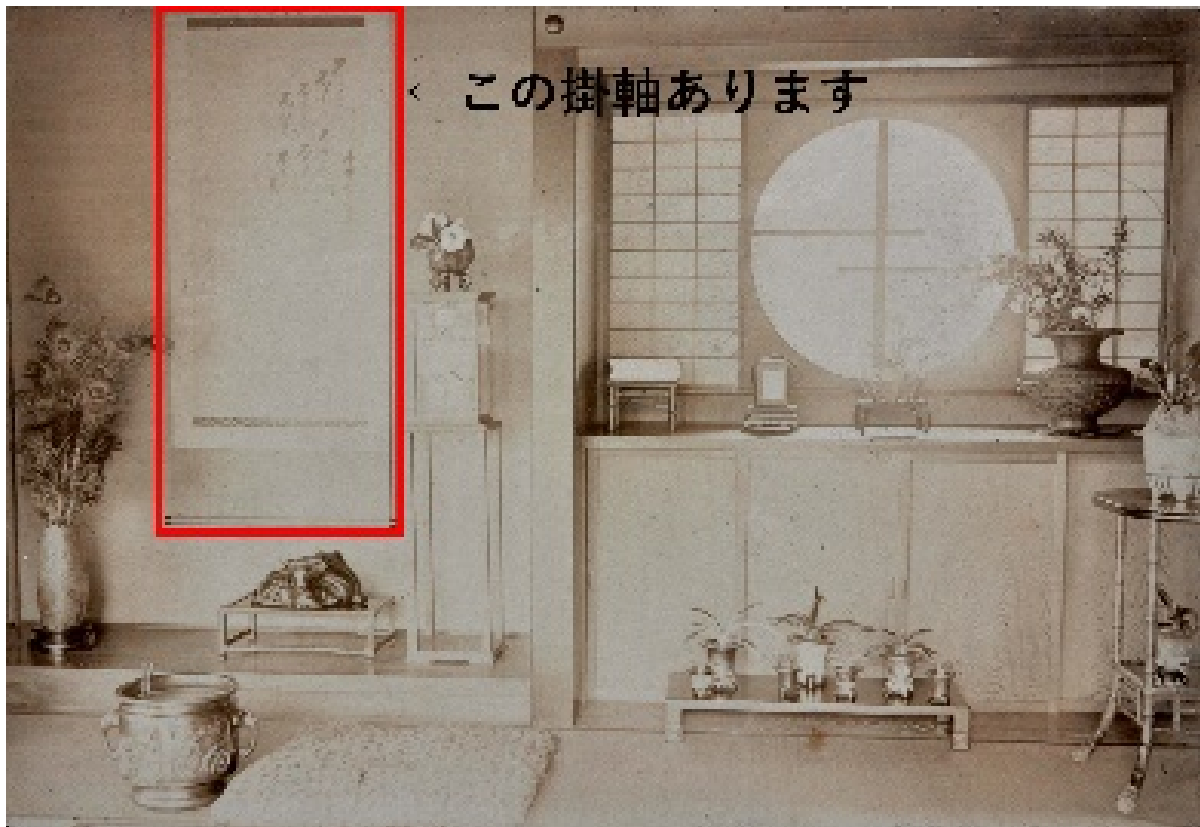
松戸市生涯学習部戸定歴史館

☎047-362-2050（月曜休館） FAX047-361-0056

✉ mctojourekishi@city.matsudo.chiba.jp



- ① 扁額「山高水長（やまたかく みずながし）」書：徳川慶喜（よしのぶ） 1884年6月
：徳川昭武の戸定邸移住を祝って、兄・徳川慶喜から贈られたものと考えられる。
- ② 煙管（きせる）、煙草入（たばこいれ）
：徳川昭武は日常的な喫煙者であったと推察される。
- ③ 《勝利者!!!》（ブロンズ彫刻） 作：メーヌ 1866年
：駐仏日本総領事フリーリ・エラールから徳川昭武に贈られた記念品。
- ④ 《大理石獅子彫刻》 19世紀
：徳川昭武がヨーロッパで入手したものと推測される。昭武は、この獅子像を愛好し、サイズ違いのバリエーション作品を陶器で製作している。
- ⑤ 群羊図（油彩画） 作：高橋
：署名に高橋とあるが詳細は調査中。



該当の掛軸は、富士図画讃 書：徳川齊昭（とくがわ なりあき）

昭武の父・水戸藩9代藩主が絵と詩を書いた作品。戸定邸の離座敷は、昭武の生母・秋庭（しゅうてい）が使った部屋で、その座敷の床の間に軸が掛けられている。

AI 彩色画像について

昨年度に実施した、松戸市立博物館・戸定歴史館のデジタルミュージアム事業に関連して、戸定邸表座敷に3点、設置している「まつどおかしカメラ」

これは、元々モノクロ、あるいはセピアカラーでプリントされた写真の画像データをAIに認識させ、AIの過去学習によって得られた情報を基に色を付加したものです。AIの自動認識を利用するので、実際の色味と合致していない可能性もありますが、同時代をイメージさせる補足情報として使用しているものです。